## クラゾセンタン投与下の脳血管攣縮期管理における CVP の必要性

### ◆　研究の対象となる方

2022 年 4 月以降に済生会福岡総合病院で脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血に対して手術加療を行い、術後にピブラッツ（クラゾセンタン）を使用された方。

### ◆　目的・方法

くも膜下出血術後の脳血管攣縮予防としてクラゾセンタンの投与が 2022 年 4 月から開始されました。クラゾセンタンには体液貯留の副作用があり、体液バランスの管理が非常に重要です。体重が増加しないように輸液量は少なめに管理しておりますが、具体的な方法はまだ確立されておりません。今回、我々はクラゾセンタンを使用する症例の管理の面で中心静脈圧測定の有効性について検討しております。2022 年 4 月以降に当院で治療したくも膜下出血患者で、術後にクラゾセンタンの投与を行なった症例を対象とし、輸液および中心静脈圧測定のために上肢より PICC カテーテルを挿入します。 体重、中心静脈圧は 14 日間毎日測定し、点滴はクラゾセンタンに加えて低張アルブミン製剤の持続投与を行います。In-out バランスは一日+500 未満、体重は入院時体重の+1kg 未満を管理の目標としております。入院時体重より+2kg を体重増加と定義し、脳血管攣縮期（発症から 2 週間）の体重の推移、胸水貯留、利尿薬の使用方法や使用量、CVP について検討しております。

### ◆　研究に使用する情報

年齢、性別、体重、生化学検査値、検査画像（胸部レントゲン、CT、MRI、脳血管撮影検査）、中心静脈圧、輸液量、尿量など診療の中で得られた情報を使用します。
この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

### ◆　お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。また、本研究の成果は学会等での公表を予定しておりますが、個別にご説明することも可能です。いずれも下記へお申し出ください。
試料や情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。


| | |
|---|---|
| 連絡先 | 福岡県済生会福岡総合病院　脳神経外科　梶原　壮翔<br>住所：福岡市中央区天神 1-3-46　　電話：092-771-8151（代表） |


以上